

## 1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

夏休みのある日、みなみは家族と一緒に町の図書館で自由研究の資料を探していた。外は青空が広がり、強い日差しが照りつけていたが、突然、空が暗く覆われ、遠くで雷鳴が響いた。図書館の窓の外を見ると、黒い雲が町を飲み込むように広がっていた。町内放送が流れた。「大雨による土砂災害の危険があります。安全な場所に避難してください。」みなみは思わず息を呑み、胸がどきどきした。

みなみの家は町の高台にあり、すぐに避難する必要はなかつた。しかし、近くに住む祖父母や友だちのことが心配になつた。母と相談し、みなみは自転車に乗つて友だちの家を回り、安全に注意しながら避難することにした。道に出ると、雨が降り始め、ぬかるみや倒れかけた看板があり、慎重に進まなければならなかつた。途中、滑りそうになつたが、近くの大人に声をかけてもらいながら前に進んだ。

友だちの家に着くと、友だちの母は少し慌てていた。みなみが「大丈夫、落ち着きましょう」と声をかけると、安心した表情を見せた。「ありがとう、みなみちゃん。みんなで一緒に高い場所へ避難しよう。」みなみは友だちとその家族と一緒に、町の避難所である小学校の体育館へ向かつた。道中も、倒れそうな木や水たまりを避けながら進み、互いに声をかけ合つた。

体育館に着くと、多くの人たちが避難しており、ボランティアの人たちが手際よく毛布や食べ物を配つていた。避難所の中は雨音が響き、少しひんやりとしていたが、人々は協力して空間を整え、座る場所を分け合つていた。みなみは、雨に濡れて震えている赤ちゃんを抱えたお母さんのそばに行き、「大丈夫、もうすぐ落ち着きますよ」と声をかけた。赤ちゃんはやがて泣きやみ、お母さんも安堵の表情を見せた。

避難所では、子どもたちが不安そうにうろうろしていた。みなみは友だちと一緒に声をかけたり、紙

や折り紙で簡単な遊びを提案したりした。少しづつ子どもたちは笑顔を取り戻し、大人たちも互いに協力し、食料や水を分け合つたり、体育館のスペースを整理したりしていた。みなみは、自分ひとりでは何もできないと思っていたが、周りの人たちと協力することで少しづつ安心できる環境が作られることに気づいた。

夜になり、雨はまだ強く降つていたが、体育館の窓から外を眺めながら、みなみは今日の出来事を思い返した。怖くて不安な気持ちもあった。□冷静に行動し、周りの人と助け合つことで、みんなが少しでも安全に過ごせることを学んだ。避難所での協力や声をかけ合うことがどれほど大事かを実感し、みなみは明日からも家族や友だちのためにできることを考えようと心に誓つた。

翌朝、雨が少し弱まるで、みなみは友だちと一緒に周囲の安全を確認した。倒れた木を片付けたり、濁つた水たまりを避けて通れる道を見つけたりしながら、避難所にいる人たちのために小さな手助けを続けた。避難所の大人たちも、協力して毛布や食料を整えたり、子どもたちの世話をしたりしていた。みなみは、自然災害のときこそ、一人ひとりが冷静でいること、周りの人と協力することの大切さを強く感じた。そして、自分の行動が誰かの助けになり、安心を生むことを学んだ。災害は突然やつてくるけれど、落ち着いて行動し、互いに助け合うことで、少しでも安全に過ごせることをみなみは心に深く刻んだのだった。



# 小学5年生 文章問題14

学習日

月 日

(1) みなみが災害の異変を感じたのは、どの場面ですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 家族と図書館に入り、本を探し始めたとき
- ② 外が暗くなり、雷鳴が響き、町内放送が流れたとき
- ③ 自転車で友だちの家に向かっている途中
- ④ 避難所に着いたあと、ボランティアを見たとき

(2) みなみが友だちの家を回ることを決めた理由として、最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 自分の家が低地にあり、すぐに避難しなければならなかつたから
- ② 家族が心配したので、急いで家に帰る必要があつたから
- ③ 高台の家は安全でも、祖父母や友だちのことが気になつたから
- ④ ボランティアとして避難所に行くよう頼まれたから

(3) 次の出来事を起こつた順に並べかえなさい。

- ① みなみが体育館で赤ちゃん連れのお母さんに声をかける。
- ② 友だちの家族と一緒に避難所へ向かう。
- ③ 図書館で突然の雷鳴と町内放送が流れる。
- ④ 避難所で子どもたちに折り紙の遊びを提案する。

(4) 本文の内容と正しければ○、ちがつていれば×をつけなさい。

( ) みなみは、道が危険な状態でも冷静に

周囲の様子を見ながら進んだ。

( ) 避難所では、ほとんどの人が自分のことで精いっぱいで、協力する人は少なかつた。

( ) みなみは避難所で子どもたちが不安そうにしている様子を見て、遊びを提案した。

(5) 文中の□に入る接続詞をあとの一①～④から選び番号を○で囲みなさい。

① そして  
② しかし  
③ また  
④ さらに

みなみは災害を体験して、どのような考え方を強く持つようになりましたか。本文の内容に基づき、四十～六十五字でまとめなさい。

# 小学5年生 文章問題14

学習日

月 日

(1) みなみが災害の異変を感じたのは、どの場面ですか。最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 家族と図書館に入り、本を探し始めたとき  
② 外が暗くなり、雷鳴が響き、町内放送が流れたとき  
③ 自転車で友だちの家に向かっている途中  
④ 避難所に着いたあと、ボランティアを見たとき

(2) みなみが友だちの家を回ることを決めた理由として、最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 自分の家が低地にあり、すぐに避難しなければならなかつたから  
② 家族が心配したので、急いで家に帰る必要があつたから  
③ 高台の家は安全でも、祖父母や友だちのことが気になつたから  
④ ボランティアとして避難所に行くよう頼まれたから

(3) 次の出来事を起こつた順に並べかえなさい。

- ① みなみが体育館で赤ちゃん連れのお母さんに声をかける。  
② 友だちの家族と一緒に避難所へ向かう。  
③ 図書館で突然の雷鳴と町内放送が流れる。  
④ 避難所で子どもたちに折り紙の遊びを提案する。

(3) → (2) → (1) → (4)

(4) 本文の内容と正しければ○、ちがつていれば×をつけなさい。

(○) みなみは、道が危険な状態でも冷静に

周囲の様子を見ながら進んだ。

(×) 避難所では、ほとんどの人が自分のことで精いっぱいで、協力する人は少なかつた。

(○) みなみは避難所で子どもたちが不安そうにしている様子を見て、遊びを提案した。

(5) 文中の□に入る接続詞をあの①～④から選び番号を○で囲みなさい。

① そして  
② しかし  
③ また  
④ さらに

(6) みなみは災害を体験して、どのような考えを強く持つようになりましたか。本文の内容に基づき、四十～六十五字でまとめなさい。

解答例)  
災害のときこそ落ち着いて行動し、周りの人と協力すれば、皆が安心して過ごせることを強く学んだ。